

## ヨハネ 21 章 15-25 節

### 「愛の問いかけ」

今日の記事は、信仰を持っていても、ふがない自分に悩み、不安定な心を持ってしまふ信仰者のために、非常に有益な個所だと思います。キリストは三度目の顕現において、テベリヤ湖(ガリラヤ湖)の岸辺で、炭火をおこして、弟子たちを朝食に招いてくださいました(9節)。朝食の後、問答が始まります。三度ご自身を否定したペトロに対して、三度、「わたしを愛しますか」と問いかけていくのです。

一度目の問いかけ。「ヨハネの子シモン。あなたはこの人たち以上に、わたしを愛しますか」(15節 a)。呼びかけは「ヨハネの子シモン」。本名で呼んでいます。あたかも、彼を素のままにして、再度、弟子としての召命を与えようとしているようなおもむきをも感じさせます。そして、「あなたはこの人たち以上に」との問いかけです。自己中心的だったペトロならば、迷わず「もちろんです。」と答えたことでしょう。しかしこの時のペトロは、画の強い自己主張がなく、「私があなたを愛することは、あなたをご存じです」という答えだけでした。二度目の問いかけ、そして三度目。三度目だけ「フィレオー」が、「愛する」に使用されています。それに対してペトロは、全て「フィレオー」で応答していました。ペトロが砕かれて謙遜になった気持ちに、キリストが寄り添い、「フィレオー」で問いかけてくださったのです。ペトロの答えは、「主よ。あなたはいつさいのことをご存じです。あなたは、私があなただを愛することを知っておいでになります」(17節)でした。

毎日過ごしていると、ふと自分の無価値さに追いやられる時があります。なぜ役に立たない自分がここにいるのか、と。何のために生きなければならないのかと。私はこのキリストの三度の問いかけを、テストや尋問のように思っていました。しかし、キリストの「あなたはわたしを愛しますか」という問いは、実は「わたしはあなたを愛している」ということの裏返しなんだ、と気づいたのです。ペトロはキリストを裏切って心がズタズタになった。けれども、キリストは、そんな彼を赦し、愛しておられた。キリストは、一晩、漁をして何も捕れずに疲れきったペトロたちのために、朝の食事を用意してくださっていた。それが愛の証だ、と。ペトロは、自分の罪を赦し、自分をありのままに受けとめ愛していただいているキリストの愛を、ひしひしと感じていたのです。「わたしは赦され、愛されている」。それは、ペトロだけではありません。何度裏切っても、キリストは皆さんのことを心から赦し、愛しておられる。その実感をもっていただきたい、と思うのです。

「イエスはペトロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい」(22節)。22節の最後にキリストは伝えます。私たちはどうしても人と比較したくなってしまう。人のことが気になります。あの人はいいな。それに引きかえ自分は、何でこんなに弱いんだろう、と。22節には、人と比較なんてする必要がないし、すべきじゃないと言っているように思います。人がどうのではなくて、「あなたを、愛しているよ。だから、あなたは、わたしに従いなさい」。それでいいのだと思います。自信をもって、主に従って歩いていきましょう。